

# 会 議 録

1 会議名	第3回南砺市男女共同参画推進審議会
2 議題(公開)	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 付議事項 南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の内容について ・南砺市らしさとは ・基本目標等の検討 …資料1 4. 副会長挨拶 5. 閉会
3 開催日時	令和4年8月30日(火) 開会時間:午後7時/閉会時間:午後9時00分
4 開催場所	南砺市役所 本館4階 401会議室
5 会議出席者	[委員:出席9名/全14名] ※50音順 岩井 透、浦井 啓子、大坪 久美子、河合 香織、佐竹 弘昭、谷口 恵 藤井 篤子、水口 幹夫、渡邊 美和子 [委員:欠席5名] 安達 望、近藤 隆志、橋爪 央樹、水木 宏一、山本 紀子 [市:出席4名] 事務局 南砺で暮らしません課 女性活躍・婚活支援係 係長 高堂 清美 " " 主事 堀井 玲紀
6 傍聴者	0名
7 会議記録 (1)開会	午後7時00分
(2)会長あいさつ	第1回、第2回の審議会では須河氏のご講演を聞いたり、おおまかに思うことを話し合ったりして、率直な意見を話しやすい雰囲気をつくれた。それらの話し合いを踏まえて、今回からは実際に見直しに入ることと思う。 私自身、色々な会議に参加しており、子どもの権利条例のワーキンググループにも入っているが、ほぼ完成に近い形になってきている。先日もシンポジウムに参加した。男女共同参画も子どもの権利条例も、根本は同じだと思う。これまでもPTAや子育てに関心を持ってきたが、子どもに権利や人権を浸透させていくという意味で、南砺市で条例づくりをするというのはとてもいい取組みだと思う。人権の花運動の中で学校に出向き、その後子どもの人権を考える座談会を砺波市で行ったが、南砺市では条例をつくっていることから、子どもに対しても人権という事が、身近まではいかないにしても、「一体何それ?」といった状況ではなくなっており、とてもいいと思っている。

	<p>子どもは素直に人権に向き合ってくれている。それを踏まえると、むしろ私たちや年配世代の方が、当時の時代背景による価値観もあるため、頭の切り替えが難しい。</p> <p>男女共同参画については、これまでの議論の中でも委員の皆さんと共通理解が図れたが、子どもの人権や権利のことを市民全員が理解していくことや、男女共同参画や人権を子どもに説明することは、かなり難しいことだと思っている。これをきっかけに子どもの権利条例の思いを大人も理解して、そういった視点から進めていくことで素直に捉えられると思う。これらも連動した形で、実効性のある、市民の皆さんに理解していただけるような切り口をこの見直しに入れていけたらいいと思っている。</p>
(3)付議事項	<p>南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の内容について 「南砺市らしさとは」に関し、委員からの発言は下記の通り。</p> <p>A委員： 前回からの話でも出ていたが、「南砺市らしい」は男女共同参画の目指すところとは違う部分がたくさんある。「南砺市らしさ」ではなく「南砺市が必要とする」といった文言に修正し、プラス要素もマイナス要素も含めた表現にしていくのはどうだろうか。</p> <p>B委員： 男女共同参画は女らしい、男らしい、子どもらしいといった、「らしさ」を必要としないことが基本にあると思う。A委員のおっしゃったような、南砺市が必要とする、市内の全ての人がある人らしく生きられるような文言で表現された方がいいと思う。 ジェンダーや男女共同参画には、「らしさ」は必要ないのではないかと。地域に何が不足しているかという点について、A委員がおっしゃったような方法で入れ込んでいくと思う。</p> <p>A委員： プラン(第2次)の P31 の本市の特徴には、いいところばかり書いてある。本来反省すべき点があるかもしれないと思う。プラスのことばかり書いてあると、これから何かをしようということが出てこない気がする。例えば、この前の議論の中でもあった、南砺市は男性中心、年功序列的な考え方が未だにあるといったこと(男女共同参画視点におけるマイナス面)も入れていかないと、南砺市が必要とする社会につながりにくいだろう。</p> <p>C委員： 前回のグループ討議でもあったが、P31 の表現について、「南砺市らしさ」といった、市民の共通理解になっていない言葉を使うと、当時の方の思いは分からないが、誤解を生じ、自分なりの解釈になってしまう。 子どもらしさについて、子どもの権利条例策定当初は、「子どもがやるべきことをしないで、権利主張ばかりしてしまうのでは」といった意見も多く、パブリックコメントでもそういったコメントがあったと聞いている。らしさを浮かべると難しい。多様性を求めるのであれば、「自分らしさ」につながると思う。</p>

事務局：

前回の会議で、「南砺市らしさ」の経緯を事務局で調べてほしいといったお話もあったので、当時の担当者や議事録を確認した。

当時の審議会委員も男女共同参画をどうにかしていかなければいけないという問題意識があった。その中で、地域の上層部の意識を今後変えていくことは難しいだろう、若者世代に目を向けていくべきという話があり、転出した学生らにUターンで地元に戻ってきてもらうために、地域とのつながりを大切にしていこうという話になった。そこで、南砺市らしさ、南砺市の強みである結いや土徳の精神から、愛着を持つ人を増やすという考えにつながっていったという話ではあった。

しかし、言葉を入れたものの、実際の男女共同参画推進プランの施策にどう結び付けていくのかということころまでは書き込めなかったようで、南砺市らしさがどう施策に活かされているのか、南砺市らしさと施策のつながりが読み取りづらいプランになっている。今後の見直しの中で、今の時代に合った南砺市らしさの解釈に修正するか、南砺市らしさの深い位置づけを考えるとといった方向で見直しいただければという話であった。

C委員：

策定当時は結いや土徳が主張された時期だったのだろう。確かに、地域のつながりを大事にしようという思いが、この言葉に反映されたのかもしれない。当時の委員が、最初から南砺市らしさを思っって男らしさ、女らしさを維持しようと思ったのではないことは容易に分かる。

しかしながら、これまで意見が出ていた通り、抽象的な言葉、共通理解できない言葉の定義をこの場で決めるのは難しいと思う。計画に入れるにはそういった言葉は入れない方がいいと思う。先ほど出ていたような、南砺市が必要とするといった、具体的な表現を探っていった方がいいと思う。

D委員：

私自身、学校卒業後県外で働いてから南砺市に戻ってきた。最近、たまたま高校生の前で自分の仕事について話す機会があったときに、学生に、どうして南砺市に戻ってきたのか？と質問された。女子生徒達から、卒業したら県外に出たい、できれば都会に住みたい、なぜわざわざ帰ってきたのですか？と聞かれた。自分なりになぜ帰ってきたかを考えたときに、南砺市は自分のやりたい仕事ができる場所であり、いろんな挑戦をしている人がいる、新幹線や飛行機でどこへでも行ける、やりたいことをあきらめなくていいと気づいたからだ、生徒に質問されて解った。

南砺市らしさという言葉には私もいまいちピンときていない。らしさというよりは、帰ってきたくなる南砺市、どんな人でも、何でも挑戦できる南砺市といった、南砺市に魅力があるということを知ってもらうことが大事なのではないかと思う。シングルでも、子どもがいてもいなくても、どんな年になっても自分らしくいられるまちだと思うので、それを分かり易い言葉で表現出来たらいいと思う。

C委員：

今言われたような具体的な表現をするべき。若者・子育て世代向けアンケートの結果やこれまでの議論を踏まえても、らしさという言葉は枠にあてはめられたように思う。一方で、自分らしくていいと言われると、枠はなく、自分で枠を決められるというように思う。自分らしくいられるまちといった言い方だと、ウキウキした感じがする。

皆さんの意見としては、今後は南砺市らしさという言葉は使わず、違った言い方で探していくという考えだと思う。

SDGsで多様性を大切にしている中で、男女ということ自体が枠にはめてしまうような価値観だと思う。多様性の視点で言い換えた方がいいと思う。

E委員：

例えば、控えめという言葉が、別の言葉に言い換えると引っ込み思案という言葉になったり、活動的という言葉が言い換えると出しやばりという言葉になったり、どういった言葉でも両面の要素を持っている。P31 の本市の強みで、「コミュニティが強固であり」とあるが、ある時はコミュニティが強固で助けられるところもあるが、それが強すぎると感じる人にとっては、コミュニティに参加したくない、とても嫌だと感じるのだと思う。

私も大学進学で県外に出て、帰ってきたくなくてしばらく県外にいた。なぜ帰ってきたのかというと、家族の無言の圧力があつたから。しかし、帰ってみて、南砺市はどこにでもすぐに行けるという良さに気づいた。当時は良さに気づかず、悪いところばかりに目がいつていた。

例えば、地域の年配者のみが地域の会合の出席を許され、会合後には酒を飲み、若い世代は江浚いなどの労働を強いられる。しかし、結局それが毎年続いていたから、皆さん地域を閉そく的に感じ、田舎は嫌だと思うのだろう。

国から県、県から市に(事業方針等が)降りてきているからといって、100%国と同じ考え方に合わせなくてもいいと思う。南砺市らしい男女共同参画推進があってもいいとは思ふ。

C委員：

良さも悪さも、南砺市らしいという曖昧な言葉でなく、きっちりと表現して入れればいいのかと思う。昔の考え方を否定する訳ではなく、これからの若い人のためにこういう南砺市にしていこうということを浸透させられるような計画になればいいと思う。今までは時代として、役割分担をしていた背景もあり、それは悪いところばかりではない。いいところを残して、枠にはめずに可能性を広げられるように表現したい。

F委員：

先日の若者・子育て世代アンケートをみても、これまでとは違うところを求められてきているとわかった。らしさというのは全員が一致して思い描くものではないと思うし、いいと思っている人もいれば変えていきたいと思っている人もいる中で、D委員からもあったような、みんながチャレンジできる、周りの圧力で我慢しないでいい、そういった環境をつくっていくことが大事だと思うので、そういう風にみんながイメージできる言葉に変えていくべきだと思う。

G委員：

私も、南砺らしさという言葉は窮屈さがついてまわる言葉だと思う。男性、女性でもイメージが違っているだろうと思う。しかし、南砺市の良さはあると思うので、それを含まれたらいい。市内に住んでいる人にも住み易く、これから住みたいと思う人が増えていくように、これからの見直しを進められたらいいと思う。

子どもの数、若者の数がどんどん減っていく中、多様性が必要な社会で、男性、女性という区別から一歩踏み込んだプランにしていいと思う。

若い人にとって魅力的なプランであることも、南砺市に住み続けたいという思いにつながると思う。もちろん男女のジェンダーギャップの解消は大きなテーマだが、プラス、私たちがここに住みたい、ここだと帰ってきたくなる、自分らしくいられるまちというところ、男性も女性も関係ないというところをプランに組み込めたら素敵だと思う。

渡邊会長：

南砺市らしさについて否定的なイメージは前回もでていた。窮屈さは否めないと思う。しかし、作った方々も、私たちも、南砺市らしさがダメといっている訳ではない。南砺市らしさとD委員の話を経ると、南砺市の良さが共感できる、南砺市の価値を共感できるとか、という表現にできればと思う。今後、具体的にどういう表現にしたらいいか、議論を進めていきたい。

～～～

F委員：

男性も女性も、自分の中に権利があるという揺るぎ無い自信があれば、やっていいんだという自信が大事。

C委員：

子どもの権利条例においても、アンケートの中で、自分の人権や権利を知ることができ、自信がついたという子ども達がいた。やっていいんだよ、できるんだよ、我慢しないでいいんだよ、と言うことで自己肯定感を高めることが大切で、それは大人も同じ。男女共同参画推進においても、女性は、不幸とまで思っていないが、こんなもんだと諦めている。それだと、その人にとっても残念だし、南砺市にとっても損失だと思う。

F委員：

らしさは時代によって変わっていく。誰もが可能性をイメージできる言葉にできればと思う。

基本目標等の検討について、各委員からの発言は下記の通り。

A委員：

基本目標1(1)「男女共同参画意識の形成」における成果指標「男女共同参画の考

え方を知っており、関心もあると回答した数」について。先日の若者・子育て世代向けアンケートの結果を踏まえても、私自身ショックを受けたところだが、成果指標として現状認識が必要だと思う。関心があるかないかを踏まえて、その次に南砺市の現状をどう思うかがないと、次に進まないと思う。

また、十分だ、不十分だといった2者択一では意味がなく、まあまあ、少しそう思うといった数択の回答にした方がいい。基本施策の中にも「各種調査・統計資料の収集と整理」とある。市民意識調査が最初に来て、参画意識をどうしていくか、という流れだと思う。

C委員：

「関心がある」、これも曖昧な言葉である。もはや、男女共同参画を知っていますか？というフェーズではない。当時はそういう感覚だったのだろう。むしろ、どの部分に問題意識があるかということの方が大切。

A委員：

どう現状を捉えているのか、そして問題だと思う人には、どこを問題だと感じているのか、と進めれば良いと思う。

F委員：

年代によって分けてみることで、どこに苦しんでいる層があるかもわかる。

A委員：

それがあると、南砺市が必要とする目標がみえてくる気がする。

C委員：

やはり、基本目標1は「男女が互いに尊重し合える意識づくり」だから、意識づくりをするためにはどういふところにニーズがあるのか、現状として問題を持っていないという人が多ければ、そうではないと言ったり、問題を持っている人が多かったら、どういふ点かを聞くなどということができれば、具体的な目標が定まるだろう。

この5年間で、策定時の認識と時代も認識も変わってきている。目標に対しても、後退していることはないと思う。策定から5年経過した今、どこに目標を定めるか、何をどう進めるかの問題意識がないと、指標にも落とし込めない。

事務局：

基本目標の改定といった大幅な改定は、今から5年後の第3次策定の際にすることとなる。今はあくまで基本目標は変わらず、課題感や、P31の南砺市らしさの文言、そして目標に対する成果指標の見直しがメイン。

G委員：

先ほどのA委員の意見はとてもいいと思った。年代別に分ける、5段階の選択にするといった、施策に反映できることをしておく、5年後の第3次策定時に反映できると

思う。男性、女性含め、この年代では意識が乖離しているというのが分かれば、そこをターゲットに絞って必要なことに取組み、全体的な数値も改善していこう。Yes か No で答える簡単なものよりも、詳細な内容にすると、全体のプランを変化させていける。可能であればそういった成果指標の取り方をして、分析まで出来る方法を検討していただけたらと思う。

C委員：

今の見直しでは抜本的な改定はできないだろうが、次の第3次策定に向け、それにつながるような成果指標になっていくといいと思う。

H委員：

事務局から前に提示のあった、これまでの成果指標の進捗状況も照らし合わせて考えていった方がいいと思う。

F委員：

基本目標1の「男女が互いに尊重し合える意識づくり」の指標が一つだけである。今の教育の中で、子どもたちにとって性別に拘らず平等かを図る成果指標もあってもいいのでは。見直しの中で、成果指標を加えることはできるのか。

事務局：

加えることはできるが、第2次策定時に、県や近隣市町村と比べても、あえてある程度数を絞った成果指標にしたと伺っている。

C委員：

今、基本目標や成果指標については気づいたことを言っていたが、成果指標の今までの経緯も照らし合わせながら、進捗通りに進んでいるものもあればなんとなくピンとこない指標もあると思う。一つ一つ具体的に検証していった方がいいと思う。

事務局：

おっしゃる通りである。

今の成果指標は担当課から提示されたものであり、審議会の中で指摘があれば、それを担当課に共有し、現状にあった文言に適宜修正してもらい、見直しをまとめるまでにお示ししたいと思っている。

渡邊会長：

今回の審議会で、今後見直すポイント(南砺市らしさの部分など)を絞ることが出来たと思う。次回からは区切って、具体的に進めていけたらと思う。

成果指標について、(前期のメンバーでは R3 までの進捗確認と意見交換を行ったが、)このメンバーで進捗状況の確認作業をしていない。まずは事務局に説明いただき、その成果指標になった経緯も含めていただけたら、見直しにもつながると思う。

次回は今の成果指標を具体的に確認いただき、質問や意見を出していただき、事務局から担当課に確認いただく作業に入っていただくと思う。

事務局：

資料1も含め、これまでに指摘があったところもあるので、出ているところから担当課に確認していきたいと思う。

A委員：

成果指標の進捗状況を見ると、担当課で検証を記載してくれている。その中で、先ほど指摘した「男女共同参画の考え方を知っており、関心もあると回答した数」の内容が、「あなたは、南砺市がジェンダーギャップ(性別による格差)の解消に取り組んでいると思いますか」という項目に修正予定となっている。

目標値の設定については進捗を見ながら今後アップデートしてほしい。

G委員：

この資料(成果指標の R3 までの進捗状況)を見ると、検証の中で、事務局からこういう風にしたらいいのではないかと素案を出していただいている。次回は、それ以外で意見を出す流れなのか、それともこの提案について議論しようということなのか。これらの資料をもとにもう1回考えていきましょうということだろうか。

事務局：

おっしゃる通りである。

A委員：

これまでの審議員の意見を踏まえて、検証欄に記載いただいているのだと思っている。

事務局：

そういったところも一部ある。

E委員：

先ほどからのお話しの通り、「あなたは、南砺市がジェンダーギャップ(性別による格差)の解消に取り組んでいると思いますか」という成果指標に修正することだが、ジェンダーギャップという言葉は、プランの中に出てきていない。出すときは、注釈を付けるべきでは。

事務局：

策定当時はジェンダーギャップという言葉が主流ではなかった。逆に、ジェンダーギャップという言葉プランに入れていくべきだろうか。



F委員：

言葉としては入っていた方がいいのでは。

C委員：

5年前にはあまり認識や周知がされていなかった言葉だが、今ではジェンダーギャップという言葉はSDGsの中でも使われている言葉なので、5年間の変遷の中での変化として、加えた方がいいと思う。

H委員：

南砺市がSDGs未来都市に加わったのもこの5年の間。それを踏まえると、注釈として加えられたらと思う。

C委員：

この見直しの変更や追加をした事柄に関しては、その根拠が必要だと思う。

F委員：

最初の序章の背景のところはこの5年の動きを書いて、それをもって変更したというのが分かれば良いと思う。

C委員：

序章に付け加えるなど、大前提としてどういう考え方で見直したというのは必要では。

事務局：

今どういう時代の流れで、どういう観点で見直したところが必要だと思う。

渡邊会長：

今日は今の資料の中で大まかに気になるところの意見を出していただき、次回以降具体的な意見をいただきたいと思う。成果指標等についてほかに意見はあるか。

D委員：

資料1をみても、これまでに基本目標4「男女の健康支援」に関してはあまり議論が無かったように思う。「(1)出産と子育て開始時の安心確保」について、出産は当たり前のことではなく、今春から不妊治療が保険適用対象となった。妊娠し出産する前には、妊活や不妊といったこともあり、これは女性だけでなく男性にも関わることである。健康的な体と心をつくるためには、妊娠するための体づくりは勿論、生理の貧困や生理のことを男性も女性もしっかりと知ることが必要である。子どもを持つためにどういった体づくりをする必要があるのか等、若い時から勉強していくこと。そういったことも全て含めて健康支援だと思う。

出産の前には必ず妊活がある。妊娠しづらくなっている人も多いと聞いている。どこかのキーワードとして入っていた方がいいと思う。妊娠・出産・子育ての前に不妊という問題が、女性だけでなく、男性にも可能性としてはある。それも全て含め、生理が来

る前からトータルで学んでいくべきということをもっと肉付け出来たらいいと思う。もう1つ、最近アンケートの性別欄が男性・女性・その他となっていることが多い。男女共同参画の中では男女という言葉はあっていいと思うが、男性でも女性でもない性を持つ方がこれから増えていこう。そういった方たちがプランをみたときにも、違和感なく読んでいただけるキーワードがプランのどこかに入っていたらいいと思う。

C委員：

やはり、妊活や不妊、生理そのものも不順な方も多い。仕事をしながら不妊治療となると、女だけの問題となったり、女性もそれで休むことにとっても抵抗があったり、そこに差別が生まれたりするということを聞いたこともある。おっしゃる通り、そういうところも含めて、教育からはじまるのかもしれないが、広い意味での健康が必要だと思った。文言を考えて入れ込んでいくべき。

また、男女で分ける必要があることが昔に比べて減ってきている気がする。子どもを産むということが男ではできないというだけで、あとはほとんど平等になってきている。女性も、子どもを産む体は大事だから、そこをフォローする考えが必要。多様性という視点で、男女の差別でないところを大前提としていくべきだということを、プランに含めていきたい。今のお話をどこに入れていくべきかは、追って考えていきたい。

F委員：

性別によって差別がない社会を、ということが男女共同参画推進であり、ジェンダー平等であると思う。最初の考え方として、大きく男性か女性かという間でのギャップをクリアしていくところがプランの目標。大きなテーマとしては、多様性を尊重するところ。男女、男女でない、多様性だよ、だけにすると、男女の問題にターゲットを絞ることが難しくなる。このプランはそこに焦点をあてたものだけど、いろんな性のグラデーションがあるということや、全ての性差別が平等となることを目指している社会の中で、ここにフォーカスしているということをはじめに書いておくと、マイノリティの当事者の方も、自分たちも含まれていると感じると思う。男女平等が解決されない世の中で、あらゆる性が尊重される将来は無い。

C委員：

視点が色々出てきて、とてもいいと思った。私たち自身もそういった視点をもって見直していきたい。

A委員：

今回の見直しのまとめ方は、全部を見直すというよりは、前段的に、今の問題点、考え方を、これまでにおっしゃられた内容や「らしさ」を含めて入れ込み、その上で個別に成果指標を見直す作業をするということになるだろうか。

渡邊会長：

おっしゃる通り。最初の文章は最後になるかもしれないが、見直しをした観点や視点を入れ込むことになる。

今回で今後の流れを話し合えたと思う。次回以降、成果指標と目標のあり方について、細かいところを見直していきたいと思う。

H委員：

南砺市らしさについて、P4のプランの概要の中にも南砺市らしさが含まれている。ここについても変更を加えるということになるだろうか。

事務局：

ここは、2015年に策定された市の総合戦略の中で書かれている内容であり、このプランにおいては、あくまで概要として南砺市の強み・弱みを記載しているものなので、これはこのままでいいと思っている。ただし、P31の南砺市らしさについては委員の意見からもある通り、文言を修正していく必要があると思う。

F委員：

P4やP31は現在の南砺市の特徴を分析しているのであって、わざわざ南砺市らしさと書かなくてもよかったのかなと思う。

C委員：

時期的に、市としてそれをキーワードにすることが多かったのだと思う。

A委員：

特徴といっても、いいことばかりでなく、こういうマイナス部分もあるということが本来書いてないといけない。

C委員：

P4に弱みを書いてあるのだから、これに若者の意識も加え、こういうことを克服していく必要があるということがP31に書かれていればいいと思う。

F委員：

また、もう少し、ジェンダー的な課題が出ていないといけない。総合戦略の内容そのままではなく、それを参考としながら男女共同参画の視点で課題を整理し記すとよい。

C委員：

今回の見直しにおいてはこの本市の特徴、南砺市らしさが若者に影響しているという視点を加えたものになっていくと思う。

E委員：

せっかく若者・子育て世代向けアンケートもとったのだから、その中から顕著なものについて、いい所・悪い所の文言に加えていくべきでは。

	<p>C委員： 確かに、アンケートはそういう活かし方をしていくといいと思う。本来、一人一人に視点を当てて見直すべきではあるが、市の存続を考えたとしても、事実の根拠となるものだと思う。</p> <p>F委員： ぜひ総合戦略にもジェンダーの視点を盛り込んでいただきたい。</p> <p>C委員： 市長も強調している部分なので、今後は含められてくると思う。</p>
(4)副会長あいさつ	<p>南砺市らしさということについて皆さんのご意見を伺えて良かったと思う。例えば男らしい、女らしいといった言葉があるが、言葉を変え、男だから、女だからといった表現とすると、強制力があるものと捉えられる。</p> <p>東日本大震災後に、つながりという言葉が使われるようになった。それがキーワードとなっている時代の流れであればいいものだが、しがらみというマイナスなイメージを生み出しているかもしれない。そういうことを考えると、「南砺市らしい」ということも、南砺市らしいから帰ってこよう、ここで一生懸命やろうと考えたときに、反面、南砺市の今の現状を憂える、閉そく感で出ていくという意味で「南砺市だから」という(マイナスの)形になるかもしれない。コインの裏表という発想が生じてくると調子が悪いのかなと思った。やはり、プラスのイメージで特徴を伝えることは、いいことだと思う。</p> <p>この審議会はまだ過半まで進んでいないと思うので、これからも皆さんと議論することによって、南砺市の男女共同参画をより推進出来るようになればと思う。皆さんと協力していきたい。</p>
(5)その他	<p>次回の開催は10月18日(火)19時からを予定。</p>
(6)閉会	<p>午後9時00分</p>